

熊本県交通安全協会

県内の交通事故 (令和6年8月31日現在) 暫定

区分	発生件数	死者数	負傷者数
本年	1,941	36	2,370
昨年	2,108	23	2,642
増減	-167	+13	-272

交通安全協会だより 第592号

令和6年10月 (一財) 熊本県交通安全協会
 発行所 熊本県交通安全活動推進センター
 ホームページ 電話(096)-233-2110
 kumamoto-ankyo.jp



回
覧

第55回交通安全子供自転車熊本県大会

6月22日(土)、益城町総合体育館/メインアリーナにおいて、「第55回交通安全子供自転車熊本県大会」を開催しました。この大会は、小学校児童を対象に自転車競技を通じた交通事故防止を目的に昭和42年から開催しているもので、今年、県内小学校から10チームが参加し、学科テスト、実技テストを行いました。県大会の結果は、次のとおりです。

なお、団体優勝した河原小学校Bチームに対して、熊本トヨタ自動車株式会社様から、全国大会へ向けての激励金が贈られました。(敬称は略します。)

- 団体優勝** 西原村立河原小学校Bチーム (大津地区)
- // 2位 熊本市立砂取小学校Aチーム (熊本東地区)
 - // 3位 山鹿市立菊鹿小学校チーム (山鹿地区)
- 個人優勝** 西原村立河原小学校Bチーム 永野 陽葵
- // 2位 熊本市立砂取小学校Aチーム 田代 悠之
 - // 3位 西原村立河原小学校Aチーム 堀田 千陽
 - // 4位 西原村立河原小学校Bチーム 島野 結菜
 - // 5位 天草市立佐伊津小学校Cチーム 松永 蛍吾
 - // 6位 西原村立河原小学校Bチーム 後藤 寛凜



第56回交通安全こども自転車全国大会

8月7日(水)、東京ビッグサイトにおいて、「第56回交通安全こども自転車全国大会」が開催され、各都道府県の代表チームが出場し競技が行われました。大会には、熊本県大会で団体優勝した西原村立河原小学校Bチーム(永野 陽葵、後藤 寛凜、林 美琴、島野 結菜)が県代表として出場し、団体で27位と健闘しました。



熊本日日新聞から転載

自転車大会で上手に乗れた

松永 蛍吾 小学6年生(天草市)

僕たち佐伊津小学校は「交通安全子供自転車熊本県大会」に出場し、学科と実技に挑戦しました。

学科では、道路標識の問題が特に難しいので、家で勉強を頑張りました。本番では思った以上にすらすら解けたので良かったです。

実技では、特に片手走行のコースやジグザグ走行が難しかったです。片手走行では、グラグラしてコースから外れてしまうこともあったけれど、なんとか上手にできました。ジグザグ走行では足を着いてしまったけれど、ピンを一つも倒さずに走行することができました。練習の成果が出てうれしかったです。

大会出場は2回目でした。昨年は補欠になってくやしかったのですが、今年はリベンジができて、とても良かったです。さらに、個人で5位を取ることができ、とてもいい思い出になりました。

これからも日頃から自転車の運転に気をつけて、安全に乗っていきたいです。

知っていますか『処理資源』という言葉

講師 福岡大学 人文学部 教授 大上 渉氏

6月28日、当協会役員（各地区交通安全協会会長）等を対象に、「見えない危険～心理学から見た交通事故の隠れた要因」という演題で、福岡大学人文学部大上渉教授による講演を行っていただきました。

その中で、「人間が情報処理を行うには、『処理資源』と呼ばれる精神エネルギーのようなものが必要であるが、その全体量は一定（限りがある）で、どこかでたくさん使うと他で不足する。例えば、運転中の携帯電話使用の場合、携帯電話の使用（操作）に一定の『処理資源』が割り当てられ、周囲への注意がおろそかになったり、安全な運転が困難になるため危険であるし、悩みは『処理資源』を奪い事故の危険性を高め、悩みを抱える者は死亡事故の率が通常の3～6倍になる。」という興味深いお話がありました。

講演のまとめとして、

- ◎ 運転中のスマホ操作や悩み事は処理資源を奪う
- ◎ 混雑道路では視野が狭まる
- ◎ 悩み事や考え事がある運転時はいつも以上に気を引き締めて
- ◎ 運転開始直後や休み明けは運転感覚が鈍り事故を起こしやすい
- ◎ 他車や歩行者を思いやる高い協調性が事故を回避する

とのご指摘がありましたので、車を運転する際の参考にされてください。



飲酒運転させない KUMAMOTO キャンペーン

目的

飲酒者・無飲酒者に関わらず、熊本県民と県内滞在者が飲酒運転根絶に向けた自発的行動を取ることにより、「飲酒運転」及び「飲酒運転による悲惨な交通事故」を未然に防ぐことを目的とする。

期間

令和6年9月1日(日)から令和8年3月31日(火)まで

重点

- 1 ひとり一人に期待される行動の推奨
- 2 「ハートクローバーくまモン」ピンバッジの着用による自らと周囲への意識啓発
- 3 広報啓発

「ハートクローバーくまモン」ピンバッジを「飲み会」の時はもちろん、普段から服やバッグなどの持ち物に着けることで、自分と周囲の皆さんに飲酒運転をさせない行動をお願いします！

※画像はイメージです。



ピンバッジについては、熊本県交通安全推進連盟までお尋ねください

お問合せは → ☎ 096 (333) 2293

ひのくにピカピカ運動

運動の期間：令和6年10月15日(火)～令和7年1月31日(金)

推進事項

- 反射材の活用
- 前照灯の早め点灯と上向き点灯の励行



例年、秋から冬にかけては日没が早まり、夕暮れ時から夜間・早朝にかけての交通事故が多発する傾向にあることから、広く県民に注意を喚起するとともに、特に、「**反射材の活用**」と「**前照灯の早め点灯**」等の実践を促し、交通事故防止を図ることを目的とする。

県下一斉キャンペーン

前照灯一斉点灯 11月1日(金) 午後5時

軽い気持ち

K・S 会社員(30代)

これまでの私の人生を振り返ると山も谷もなく、ただ幸せを一つ一つ積み重ねた、そんな日々だったと思います。

当時三〇代であった私は恋愛の末に結婚して、子供も二人授かり、念願のマイホームも手に入れ、仕事でも支店を任されるなど多少の紆余曲折はありましたが順調で、社会や地域にも貢献していました。

そんな日々の中で、仕事の後に飲む酒は私に幸せを感じさせてくれる一時でした。ましてや気心の知れた友人たちと飲むお酒は、明日への活力となっていました。

駆け付けのテキーラから始まり、その日の気分でも楽しんでいました。しかしその分お開きの時間も遅くなり、深夜になることもしばしばで、代行タクシーを呼んでもなかなか掴(つか)まらず、明日の仕事を考えて自分で運転して帰ることも何度もありました。

一度や二度でもやってよいことではありませんが、慣れというのは恐ろしいもので「飲酒してもいつもどおり運転できる」とか「深夜なら人も歩いていないから安心」とさえ思えるようになっていました。

その日もいつもと同じように呑みに行こうとしていたところに、妻から電話がありました。

「今日は早く帰ってきて、子供たちも待っているよ」受話器の後からは「パパー」と子供達の声も聞こえました。その声を聞きつつも友人と約束していたので「少し呑んで帰るよ」と話して電話を切りました。

その後、いつものテキーラから始まり、気が付けば午前一時を過ぎていました。

翌日も仕事控えていたので、いつものように家族の待つ自宅へと車を走らせました。

「飲酒量もいつもどおりだし、毎度のように裏通りで行けば検問もやっていないし大丈夫」そんな事を考えながら一方通行の道路を走っていました。

あな 贖いの日々

～交通事故の悲劇を繰り返さないために～

「夜中で人もいないし」といった身勝手な思い込みや、酒の影響もあっていつもより速度は上がっていたと思います。心地良い感じで「ボーッ」としながら運転していると、突然「人が」そう思った時にはぶつかっていました。

ブレーキを踏み、速度を落としながらサイドミラーを確認すると、自転車が倒れていました。「ケガをしているかもしれない」そう思いましたが、それと同時に全てを失うのが恐ろしくなり、車を止めることができずにそのままゆっくり車を走らせていました。

その間はわずかな時間ですが、恐怖心と理性の問答が繰り返され、およそ三〇〇m離れた所で車を停止させ、歩いて現場に戻りました。

「ケガで済んでほしい」「むしろ人でなければ」そう願いましたが、現実には厳しく、被害者の方が身動き一つしない状態で倒れていました。誰が呼んでくれたのか、間もなく救急車と警察車両が到着して目の前で慌しく動いていました。私は何もできないまま、ただ茫然ぼうぜん」と立ちつくし、気づいた時には警察の方に囲まれ、何か聞かれましたが、聞かれていた事も分らないまま「私です」それしか言えませんでした。

その後、警察署へ連れていかれ留置されましたが、今起きている出来事が受け入れられず、頭の中で何度も繰り返す事件を思い出していました。そして、決して変わる事のない現実を「ああならば、こうならば」と空想していました。取り調べが始まり、被害者の方が亡くなったことを聞かされた私は「人を殺してしまった」と涙ながらに思いました。

逮捕から二十一日後に保釈が認められ自宅に帰りましたが、その自宅は家族のいない私独りだけの空間でした。そして、楽しく食事をしていたテーブルの上に離婚届だけが置いてありました。職場に電話しましたが、これまでと違って対応もよそよそしく、もう続けられないと思います。私は辞めました。

私は改めて、自分の犯した罪の大きさを実感しました。

今の気持ちを謝罪の手紙にして、御遺族に送らせていただきましたが、返答が来る訳もなく裁判が始まりました。そこで初めて御遺族の方と対面することができたので、すぐに頭を下げて謝罪の気持ちを伝えました。

しかし当たり前のことですが、愛するご家族を奪われた御遺族は、悲しみで憔悴(しょうすい)しきつており、その眼には私のことなど映っていないようでした。私の判決は懲役三年でした。今から考えれば軽い気持ちで飲酒運転をしていました。

世間が、飲酒運転を撲滅(はくめつ)しようと呼んでいることも、飲酒運転による悲惨な事件についても知っていました。しかし「私は大丈夫」そんな安易な気持ちから一生償えない罪を背負い、被害者の人生を突然終わらせてしまいました。

そして御遺族には、以前の暮らしには一生戻れない悲しみを与え、心を殺してしまいました。それが軽い気持ちで運転した結末です。もし事件当日、家族の言葉に従っていれば、被害者の尊い命を奪うことも、御遺族に哀しい思いをさせることもなく、私も家族や仕事を失うことはなかったと、今更ながら後悔をしています。

数年たった今も、家族に会うことも、声すら聞くこともできません。そんな日が来るのかさえわかりません。今も飲酒運転が何処かで行われています。私と同じような軽い気持ちで...

私がこんなことを言える立場ではありませんが、これ以上被害者も、御遺族も、加害者も増えない事を祈ります。

※東京都交通安全協会編集発行 無断転載禁止、二次使用禁止

贖いの日々(第57集)から引用
この文章は、交通刑務所で、反省と悔悟の日々を送ることとなった受刑者の手記です。

今年六月、熊本市内でも、飲酒運転による交通死亡事故が発生しています。県警が摘発者に「飲酒運転の理由を聞くと「休んだから大丈夫」「取り締りに遭わな」といった身勝手なまさに、ほんの「軽い気持ち」が取り返しのつかない結果を招いています。車の運転者の処罰がどうであれ、亡くなった方は戻ってきません。どうか自分の周りの「大切な方」のことを常に考え、飲酒運転が引き起こす「結果の重大性」を思い続けてください。

(編集者)

各地区交通安全協会の活動だより



熊本南

春竹校区内の白山通りにおいて、通行するドライバーに対し、交通安全の呼びかけを実施



荒尾

荒尾市民プール前の市道において、横断する歩行者に「大きく手をあげ車が確実に止まってから渡るように」声掛けを実施



山鹿

子供自転車県大会へ出場する「菊鹿小学校チーム」に実技テストと学科テストを実施



菊池

菊池北小学校学童「こんべいとうハウス」の児童たちに、交通安全クイズ、横断歩道の渡り方の交通安全教室を実施



阿蘇

外国人観光客の交通事故が増加しているため、英語表記の「のぼり旗・横断幕」を作成し、幹線道路沿いに設置



阿蘇南部

県警による高森高校に対する「自転車ヘルメット着用推進モデル校」の指定に際し、ヘルメットを寄贈



御船

広安西小学校の育成クラブにおいて、夏休み期間中の学童に対して交通安全教室を実施



山都

矢部小学校において、夏休み期間中に、グッズとチラシを配布して交通安全防止と防犯のキャンペーンを実施



八代

鏡まちづくり協議会10周年記念事業の一環として、俊敏性測定器等を使った交通安全講習会を実施



芦北

田浦支部の交通安全啓発活動として、交通安全講話の後、岩崎グラウンドにおいて、グラウンド・ゴルフ大会を開催



水俣

津奈木支部では、津奈木町の国道3号線の殉職白バイ隊員の慰霊碑周辺において除草作業を行い、交通安全を祈願



人吉

人吉署管内の商業施設において、自転車シミュレーターの体験会や啓発チラシと交通安全グッズを配布



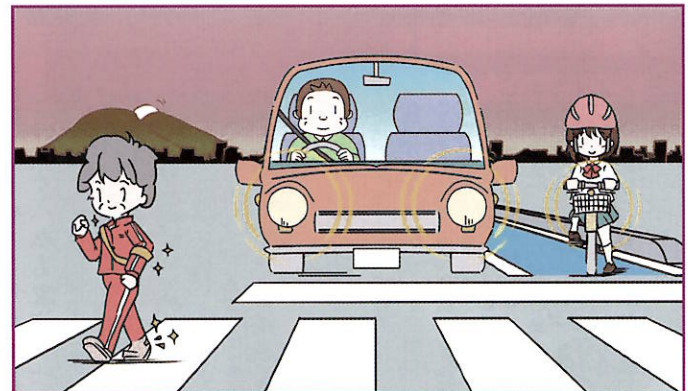
多良木

湯前町内において、カーブミラーの清掃や除草作業を実施



天草

交通安全子供自転車熊本県大会に佐伊津小学校から3チームが出場し、団体4位の成績を獲得



各地区の交通安全協会は、会員の皆様のご協力で地域における様々な交通安全活動を行っています。

納めていただいた会費(年間500円)は、あなたの街の様々な交通安全活動に使われ、大切な命を守っています。

また、会員の皆様には、「チャイルドシート」の無料貸し出しを行なっています。

詳しくは、皆様がお住いのそれぞれの交通安全協会までお尋ねください。

